

## 新津駅

旅立ちの列車を待つ間の心のときめき…。旅を終わって新津駅に降り立ったときの心のやすらぎ…。これは誰でも共感することでないでしょうか。

明治30年11月、北越鉄道(株)の開通に伴ない新津駅が開業しました。当時、駅長以下スタッフは数人だったそうです。

現存する当時の写真には、客待ちの人力車が数台見られます。

明治43年、新津～馬下間、明治45年、新津～新発田間が開通。大正13年、羽越本線が全線開通しました。

昭和3年7月、飛躍的發展をとげた新津駅は現在の駅舎に改築されたのです。

鉄道資料館  
だより ③



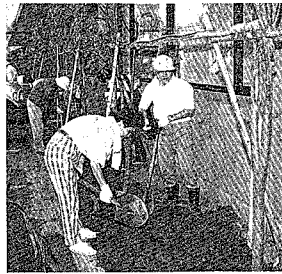
## 市民大学で学んでいます



—— ④ボランティアへのおさそい ——

### 誰でもできるボランティア

心のふれあいを大切にする様々なボランティア活動が、多くの人たちにより、いろいろな場所で展開されています。本セミナーでは年六回の学習を実施し、ボランティア活動の理念をはじめ実際に自分にとってどのような活動が考えられるのかを学習しています。去る九月十六日にはかんばらの里で実施された「こども会」のおむつたたみと「新津市花と緑の会」の花壇整理に参加し、生の活動を体験しました。かんばらの里では、入所老人や職員の笑顔に接することができました。受講生はこの体験を通してボランティア活動の大切さを再認識するとともに自分の生きがいにもつながることを知りました。



## 市民文芸

### 短歌

自が歌碑に真向ふ八一の墓所馬酔木の花の開けて散り初む

柴澤 寿栄(中野三)

啓をふいにでたるメロデーを家事をなしつつ夜までうたう

津野 敬子(西島)

### 俳句

早発ちの子に新米の握り飯

宮尾 ときい(山谷町二)

厄の日や難なく終る女旅

大野 けい(新町三)

### 川柳

手袋に隠した嘘がしやべり出す

松井 トシ(本町四)

一週間が五日になって適も五人

石崎 マツイ(二がね町)

